

第7章 活用

第1節 方向性

活用の方向性として、以下の6項目を掲げ、それぞれの計画をもって実現を図る。

- 新町支石墓群の価値をわかりやすく伝えるため、情報発信や周知に取り組み、地域への誇り、愛着を醸成する。
- 学校教育、生涯学習の場として活用し、史跡への理解を深め、次代を担う子どもたちへの関心を深める。
- 地域住民の日常的な利用、地域の祭り等と連携して活用する。
- 地域の資産として、観光や地域振興に活用する。
- 周辺施設や市内の他の史跡・文化財などとの連携を図る。
- 支石墓関連地域との交流を図る。

第2節 方法

(1) 情報発信、周知

- 1) 史跡の価値に加え、史跡と地域とをつなぐストーリーをわかりやすく伝える。
- 2) 子どもたちにも理解できるように、平易な言葉、写真やイラストを用いて、案内板や解説板等の表示を行う。
- 3) ガイドボランティア等を活用し、史跡にまつわるエピソードも交えながら、歴史を紐解き来訪者に語りかける。
- 4) AR・VRやドローン等による映像を活用し、史跡(地)の特徴を「可視化」することで、史跡への関心を高める。
- 5) ホームページの中に「新町支石墓群」のフォルダーを設け、調査情報等を発信していく。

ホームページや広報紙等を通じて、継続的に史跡情報を発信し続ける。



図 7-1 ガイドボランティア イメージ図

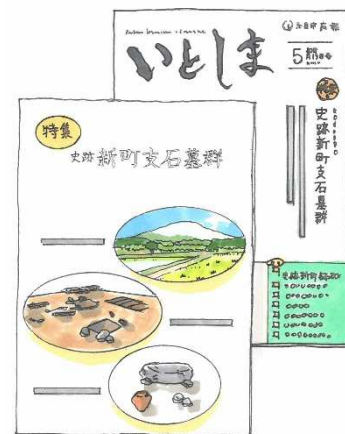


図 7-2 広報紙 イメージ図

- 6) 市の広報紙の中に、「コラム」を設け市内の史跡を紹介する中で、新町支石墓群についても紹介を行う。
- 7) 新町支石墓群のキャラクターやシンボルマークを市民から募り、様々な場面に活用していく。
- 8) SNSを通じて、調査情報を発信していく。
史跡地内に魅力ある情報を提示するとともに、写真スポット等を設定し、史跡の情報をSNSで発信する。
- 9) 講演会等を通じて、史跡の価値や魅力をわかりやすく伝える。



図 7-3 SNSでの情報発信 イメージ図

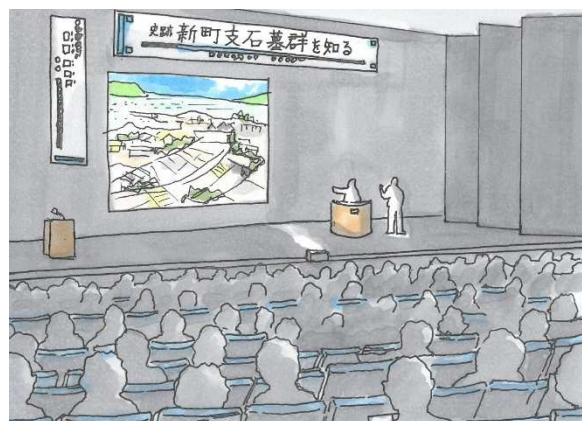


図 7-4 講演会 イメージ図

(2) 教育

- 1) 歴史教育の一環として、現地でのフィールドワークを通じて史跡に身体で触れる。
- 2) 支石墓のミニチュアづくり、アクセサリづくりなどの体験を通じて、支石墓への理解と関心を深めていく。
- 3) 学校教育の中で、支石墓のことを高学年から低学年へと語り継ぐ取り組みを行う。
- 4) 支石墓にまつわる演劇を創作し、学校教育や生涯学習の中で広めていく。



図 7-5 野外学習 イメージ図



図 7-6 支石墓のミニチュアづくり イメージ図



図 7-7 高学年から低学年へ語り継ぐ イメージ図

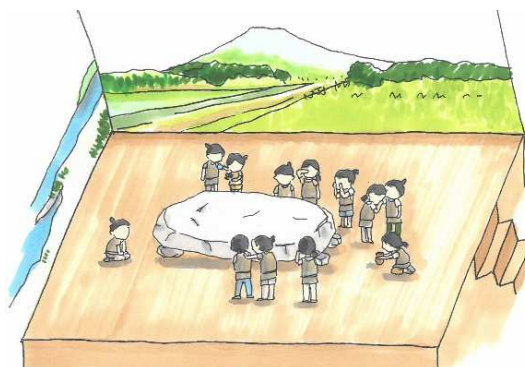


図 7-8 子どもたちの演劇 イメージ図

(3) 日常活動

- 1) 日常的な散策や憩いの場として活用できるように、園路や休憩施設を整備する。
- 2) ウォーキングのルートとして活用し、日常活動の一部に取り入れる。

(4) 観光・イベント

- 1) 史跡+αとして、「草花」を人々の気持ちを引き付ける呼び水として、魅力的な修景に取り組む。
- 2) 地域の祭り等のイベント時に、参加者の交流の場等として活用し、支石墓に親しめる機会を設ける。
- 3) 新町をめぐるスタンプラリー(1時間コース等)の一つに設定し、コース周遊後は地元の産品を景品として提供する取り組みを行う。
- 4) カキ小屋から帰宅する来訪者が気軽に立ち寄れる場として、休憩、喫茶、地域特産物をお土産にできるような場を検討する。
- 5) 支石墓をめぐるツアーを企画し、史跡や自然環境等の魅力を体感、参加者と地元との交流を図る。



図 7-9 地域農作物販売 イメージ図



図 7-10 支石墓をめぐるツアー イメージ図

(5) 周辺施設や市内の他の史跡・文化財などとの連携

新町支石墓群により多くの見学者を呼び込むためには、周辺にある各種施設や市内の他の文化財などとの連携を図る必要があり、以下の取組みを行う。

- 1) 新町支石墓群周辺の海岸線と南にそびえる可也山は玄海国定公園に指定され、風光明媚な自然を有することから、ハイキング・登山・海水浴などで訪れる観光客への史跡情報を提供しながら連携を図る。
- 2) 新町支石墓群のすぐ近くの宿泊施設や飲食店と連携するとともに観光客が興味をもって訪れやすいような工夫を講ずる。
- 3) 新町支石墓群の南側には引津小学校と引津コミュニティセンターがあり、この両施設と連携し小学校とコミュニティセンターから支石墓群までのルートを活用し、支石墓群が海のすぐそばにあることを理解する手助けとする。
- 4) 小学校やコミュニティセンターでの出前講座などを開催し、遺跡の内容を一通りそれぞれの施設内で解説した後に児童や講座参加者を徒歩で支石墓群に誘導し、現地見学を実施する。
- 5) 市内の多くの文化財と展示施設である伊都国歴史博物館と志摩歴史資料館とをつなぐことで、新町支石墓群へ見学者を誘導しやすくなるとともに遺跡に関する理解も深める。
- 6) 市内の国史跡を核として他の文化財や博物館・資料館とを介し、周回させるルートを基本とし、見学者の滞在可能時間や興味をもつ分野・時代などによってアレンジする。

7) 新町支石墓群と以下の①～⑨を巡る見学ルートづくりに取り組む。

- ①カキ小屋・岐志漁港・姫島渡船
- ②宿泊施設・飲食店
- ③小学校・コミュニティセンター
- ④伊都国歴史博物館・志摩歴史資料館
- ⑤他の史跡・文化財
- ⑥可也山・玄海国定公園
- ⑦天満神社・祭り
- ⑧浜辺からの夕陽
- ⑨沿道修景（コスモスロード、ポピーロード等）



図 7-11 公民館等での委員会 イメージ図

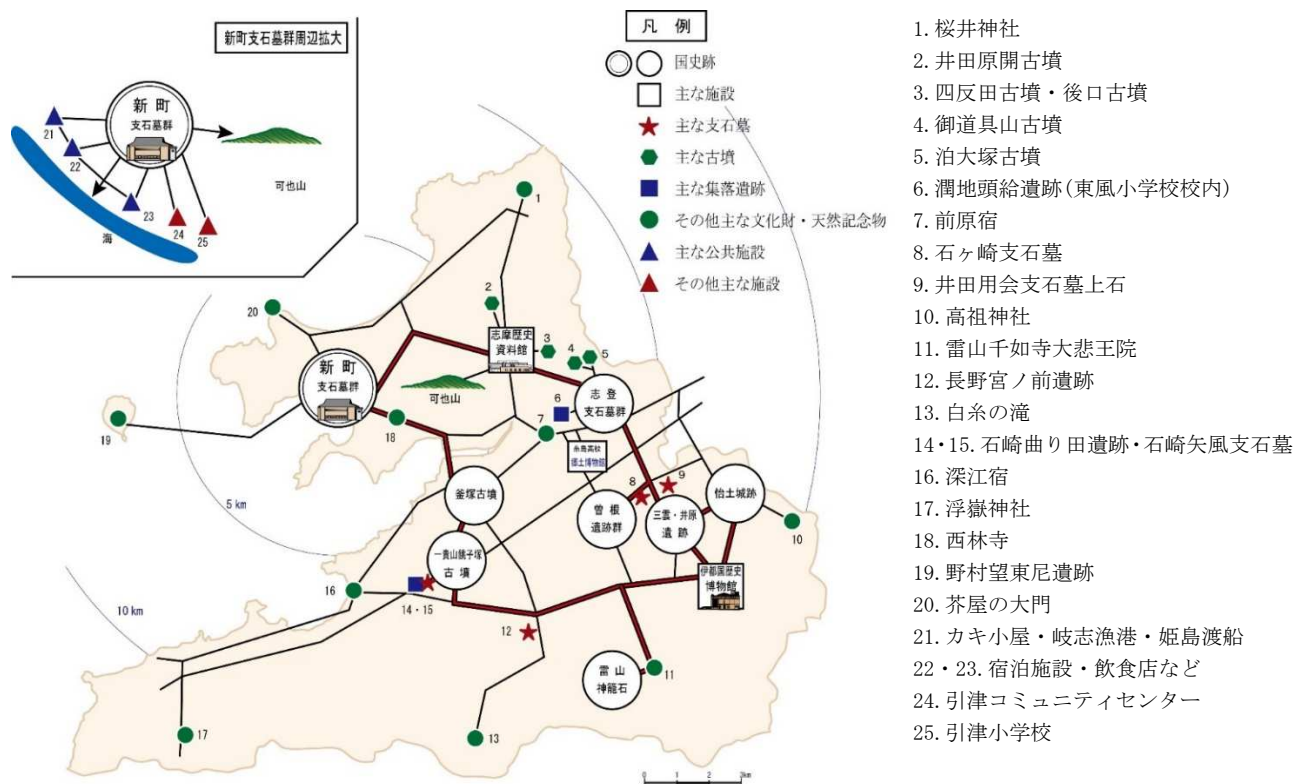


図 7-12 国史跡を核とした主な文化財・施設等をつなぐネットワーク図

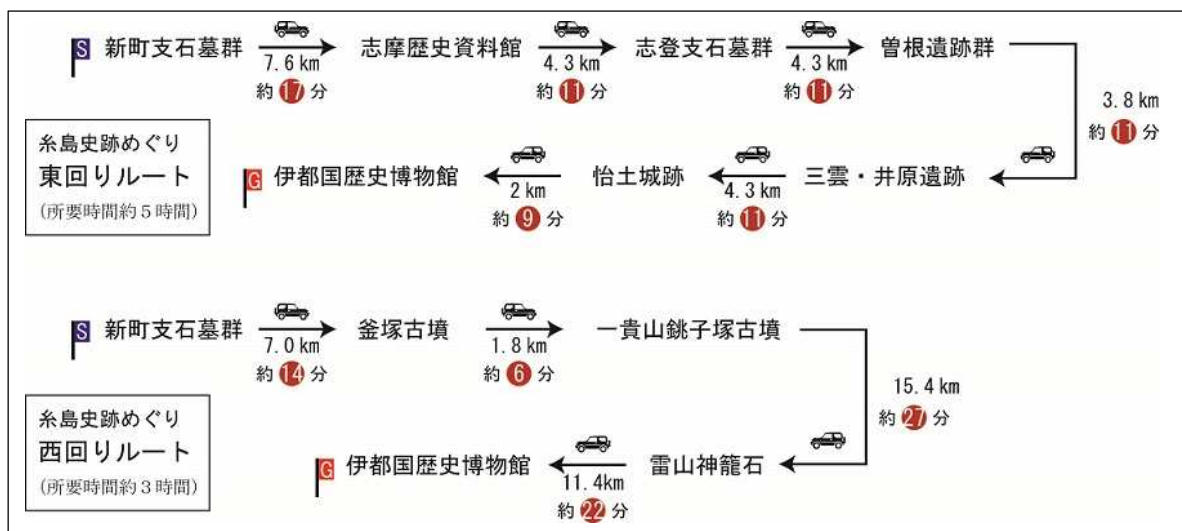


図 7-13 系島史跡めぐり基本ルート

(6) 交流

1) 関連地域との交流を図る。

支石墓はごく限られた時期に西北九州のみに分布した墓で、新町支石墓群を含め13箇所に分布しているが、その立地環境、支石墓の形態、保存・活用の状況も異なる。そこで、これらの支石墓を有する地域との交流を図り、調査・研究及び今後の保存・活用のあり方について行政間での情報共有、人材交流を図っていく。

2) 支石墓関連地域の物産、祭りの紹介を通じて相互交流を促進する。

支石墓を有する地域との物産交流、祭り等の文化交流を通じて、お互いのまちへの親しみを深め、新町の魅力に気づくことが期待される。人と人との交流を通じて、支石墓への関心を広げ、地域で保存・活用に取り組める素地を作っていく。



図 7-14 支石墓関連地域分布図